

# 復員廳第二復員局公報

第七號

昭和二十一年七月一日(月)  
第二復員局文書課

## ○令・達

復二第三六號

昭和二十年内令第七號中次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年六月二十五日

復員廳 總裁

「阪神掃海部」ヲ「神戸掃海部」ニ改メル。

(參照 昭和二十年十二月六日第二復員省公報第一〇號)

復二第四二號

掃海作業勤務者死傷手當給與規則ヲ左ノ通り定メル。

昭和二十一年六月二十八日

復員廳 總裁

掃海作業勤務者死傷手當給與規則

第一條 昭和二十年八月十五日以後掃海艦船ニ乗組ミ、聯合國軍最高司令部ノ指令ニ基キ實施セラレテアル掃海作業ニ従事スル者方、自己ノ重大ナル過失ニ因ルコトナク、該作業中死亡シ、又ハ傷疾ヲ受ケ若シハ疾病ニ罹リ障害ヲ貽スヤウニナツトキハ、別表ノ區分ニ依ル金額以內ノ死傷手當金ヲ給スル。

第二條 本人死亡ノ後ニ於テ給スベキ手當ハコレノ其ノ遺族ニ給スル。

前項ノ遺族トハ妻、子、父、母、孫、祖父、祖母、兄弟及ビ姉妹デ本人死亡當時ヨリ引續キコレト同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ。

第三條 手當ヲ受ケルベキ遺族ノ順位ハ、前條第三項ニ掲ゲタ順序ニ依リ、同順序内ニ在ツデハ男ハ女ニ先チ、長ハ幼ニ先ダツ。但シ、死亡者ノ家督相續人ハ同順序内ニ在ツデハコレヲ最先トスル。

第四條 第二條ノ遺族ノナイ場合ニオイテハ、本人死亡ノ當時實家又ハ木家ニ在ル實父母、死亡者ノ家督相續人、本人死亡當時ニオケル戸主ノ順位ニ依リ別表金額ノ二分ノ一ヲ給スルコトガデキル。

第五條 廳長ハ第一條ノ規定ニ該當スル者ガアルトキハ、死亡者ニツイテハ別紙様式第一、障害者ニツイテハ同第二ノ給與調書ヲ作成シ、順序ヲ經テコレヲ復員廳總裁ニ進達シナケレバナラナイ。

第六條 死傷手當ハ第二復員局經理部カラコレヲ交付スル。

(別紙添)

復員廳第二復員局公報 第七號 昭和二十一年七月一日

一五

1132

○通 牒

二復總第三五號

昭和二十一年六月二十八日

復員廳第二復員局總務部長

各 廳 長 殿

第二復員部内艦船乗員ノ服装ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シテ左ノヤウニ發電サレタカラ承知アリタイ。

發 第二復員局總務部長

宛 部内一般

軍務一第二九四號(二〇、一一、二〇)及二復總務局第十五號ヲ以テ定メラレタル第二復員部内ノ特別輸送及掃海艦船等ノ乗員ノ服装ニ關スル件ハ廢止セラレタリ。

從テ今後ハ舊海軍ノ特技章襟章用櫻花章等ヲ帽子、服等ニ使用スルコトハ一切行ハザル様取計ハレ度。

二復人第一八號ノ一

昭和二十一年六月十八日

復員廳第二復員局人事部長

各地方復員局長殿

二級事務官配員標準ノ件申進

各廳二級事務官定員ノ中央配員ノモノト地方復員局在籍者トノ配員標準ヲ左記ノ通定メラレタ。

記

- 一 二級事務官配員標準(第二復員局)別表第一
  - 二 右 同 (地方陸廳)別表第二
  - 三 右 同 (地方世話部)別表第三
- (別表添)

二復人扶第一號ノ四一

昭和二十一年六月二十八日

復員廳第二復員局人事部長  
復員廳第二復員局經理部長

關係各廳長殿

掃海作業勤務者死傷手当ニ關スル件通牒

復二第四二號ヲ以テ定メラレタ掃海作業勤務者死傷手当支給規則ニ依ル給與金ハ給與事山ノ生シタ日ノ屬スル會計年度ノ豫算ヲ以テ支出シナケレバナラナイシ、關係廳ハ作業終了ト共ニ逐次廢止トナル次第モアルカラ、ナルベク連ニ處理スルコトトシ當該廳(地方復員局ノ掃海部又ハ掃海支部)ガ廢止ノ場合ニハ、同時ニ事務ヲ完了スルヤウ處理セラレタイ。尙本年三月以前ノ資格者ニツイテハ此ノ際至急規定ノ書類ヲ進達セラレタイ。

（二復人第一八號ノ一別表第三）

（昭和二十一年七月一日復員廳第二復員局公報）

二級事務官配員標準（地方世話部）														
所在	定員	配員標準		所在	定員	配員標準		所在	定員	配員標準				
		中央	地方			中央	地方			中央	地方			
東京	九	六	三	函館	三	二	一	德島	四	三	一			
横濱	四	三	一	旭川	三	二	一	熊本	五	三	二			
浦和	四	二	二	名古屋	六	四	二	福岡	六	四	二			
千葉	四	三	一	津	五	四	一	鹿兒島	五	三	二			
甲府	四	二	二	岐阜	四	三	一	宮崎	四	三	一			
静岡	五	三	二	岡山	五	四	一	大分	四	三	一			
前橋	四	三	一	廣島	四	三	一	佐賀	四	三	一			
宇都宮	四	三	一	松江	四	三	一	長崎	四	三	一			
長野	五	四	一	鳥取	四	二	二	山形	四	三	一			
水戸	五	四	一	山口	五	四	一	新潟	五	四	一			
福島	五	四	一	大阪	七	五	二	金澤	四	三	一			
仙臺	五	四	一	和歌山	四	二	二	富山	四	三	一			
盛岡	四	三	一	神戸	五	四	一	京都	四	二	二			
秋田	四	三	一	奈良	四	三	一	大津	四	二	二			
青森	五	四	一	高松	四	三	一	福井	四	二	二			
札幌	五	四	一	高山	五	四	一	計	二二〇	一五五	六五			
釧路	三	二	一	高知	四	三	一							



(復二第四二號別紙) 様式第一

(昭和二十一年七月一日復員廳第二復員局公報)

掃海作業死傷手当給與調書	
死亡者ニ關スル事項	一 本籍 二 官職氏名及ビ出生年月日 三 傷病名 四 負傷又ハ罹病ノ年月日 五 負傷又ハ罹病ノ状況 六 死亡年月日 七 死亡ノ場所 八
受給資格者ニ關スル事項	九 本籍 一〇 現住所 一一 死亡者トノ續柄、氏名及ビ出生年月日
死亡手当金額	
調書作成年月日及廳長職官氏名印	

備考

- 一 本人死亡ノ事項ヲ記載シテアルハ籍謄本ヲ添付スルコト。
- 二 受給資格者(妻ヲ除ク)ガ未成年者デアルトキハ、「一」ノ次ニ後見人ノ住所氏名及ビ出生年月日ヲ記載スルコト。

(復二第四二號別紙) 様式第二

(昭和二十一年七月一日復員廳第二復員局公報)

掃海作業死傷手当給與調書	
受給資格者ニ關スル事項	一 本籍 二 現住所 三 官職氏名及ビ出生年月日 四 傷病名 五 負傷又ハ罹病ノ年月日 六 負傷又ハ罹病ノ状況 七 退職年月日 八 退職年月日 九 退職年月日
障害手当金額	第 症 金
調書作成年月日及廳長職官氏名印	間

備考

- 一 胎後症候ハ、主ナル症候ヲ記載スルコト。
- 二 胎後症候ヲ詳記シタル診断書(部内勤務ノ醫師又ハ官公病院ニ於テ作成シタルモノ)ヲ添付スルコト。

(復二第四二號別表)

(昭和二十一年七月一日復員廳第二復員局公報)

備考	身分			障害手当當								
	二級以上ノ官吏及同待遇者	三級ノ官吏及同待遇者	雇員及傭人	死亡手當	特別項症	第一項症	第二項症	第三項症	第四項症	第五項症	第六項症	第七項症
一 症狀ノ區分ハ、恩給法施行令(昭和二十一年五月現在)ニ依ル區分トスル。	二〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇		二〇,〇〇〇	一四,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,〇〇〇	四,〇〇〇	二,〇〇〇		
二 身分中ニハ、部内限同等待遇ノ囑託者ヲ含ム。	二〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇		二〇,〇〇〇	一四,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,〇〇〇	四,〇〇〇	二,〇〇〇		
	二〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇		二〇,〇〇〇	一四,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,〇〇〇	四,〇〇〇	二,〇〇〇		
	二〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇		二〇,〇〇〇	一四,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,〇〇〇	四,〇〇〇	二,〇〇〇		
	二〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇		二〇,〇〇〇	一四,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,〇〇〇	四,〇〇〇	二,〇〇〇		
	二〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇		二〇,〇〇〇	一四,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,〇〇〇	四,〇〇〇	二,〇〇〇		
	二〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇		二〇,〇〇〇	一四,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,〇〇〇	四,〇〇〇	二,〇〇〇		
	二〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇		二〇,〇〇〇	一四,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,〇〇〇	四,〇〇〇	二,〇〇〇		
	二〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇		二〇,〇〇〇	一四,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,〇〇〇	四,〇〇〇	二,〇〇〇		



復員廳第二復員局公報

第八號

昭和二十一年七月二日(火)

第二復員局文書課

○通 牒

第二九一八〇番電 昭和二十一年六月二十九日發電濟

發 人事部長

宛 大湊地方復員局總務部長

通報 横、吳、佐、舞、阪地方復員局總務部長

將校調査ノ件

貴第二七一六三五番電關聯六月二十日內務省令第三〇號ニヨル  
陸海軍將校調査ニ關スル件ハ各人ヨリ直接市町村長ヲ通ジテ提  
出セシムル採取計ハレ度。

二復入第一號ノ九

昭和二十一年七月一日

復員廳第二復員局人事部長

各地方復員局總務部長  
各上陸地連絡所長  
各地方世話部長 殿

正規海軍將校又ハ海軍特別志願豫備將校デア

ツタ者ノ調査ニ關スル件照會

首題ノ件ハ內務省令第三〇號(昭和二十一年六月二十日)ニヨ  
リ申告ヲスルコトトナツタガ、ソノ届出ヲナスベキ者ノ範圍ハ  
左記ノヤウデアル爲念。

復員廳第二復員局公報 第八號 昭和二十一年七月二日

道ツテ艦船乗組中ノ者ノ現住所ハ乗組中ノ艦船名トシ、届出  
先ハ現ニ入港中ノ地ノ市町村長(現在航海中ノ艦船ハ最初ニ  
入港シタ地ノ市町村長)ニ届出ルコトニサレタイ。

記

一 正規海軍將校ニ該當スル者

(イ) 海軍兵學校生徒教程ヲ終了シ海軍少尉候補生ヨリ海軍少  
尉ニ任用セラレタ者

(ロ) 海軍機關學校生徒教程ヲ終了シ海軍機關少尉候補生ヨリ  
海軍機關少尉ニ任用セラレタ者

(ハ) 海軍經理學校生徒教程ヲ終了シ海軍主計少尉候補生ヨリ  
海軍主計少尉ニ任用セラレタ者

(ニ) 文部省ノ諸學校ヲ終了シタ者デ當初ヨリ永久服役ノ海軍  
軍醫科、主計科、藥劑科、齒科醫科、技術科及法務科ノ武  
官ニ任用セラレ直ニ現役ニ服シタ者

(ホ) 從ツテ二年現役出身者(服役延期又ハ永久服役ニア  
トカラナツタ者ヲ含ム)或ハ文官カラ途中デ武官ニ  
轉官シタ者ハ含マレナイコトトナル。

(註) 現役特務士官タリシ者

召集中ノ豫備役准士官ヨリ豫備役特務士官ニ、及豫  
備員タル特務士官ニ任用サレタモノハ含マナイ。

一七

復員廳第二復員局公報

第八號

昭和二十一年七月二日

復員廳第二復員局文書課

昭和二十一年七月二日(火)

第二復員局文書課

復員廳第二復員局公報

第八號

昭和二十一年七月二日

復員廳第二復員局文書課

昭和二十一年七月二日(火)

第二復員局文書課

復員廳第二復員局公報

第八號

昭和二十一年七月二日

復員廳第二復員局文書課

昭和二十一年七月二日(火)



二 海軍特別志願豫備將校

- (イ) 召集中ノ豫備員ヲ海軍豫備員ヨリスル海軍武官任用等特例ニ依リ志願ニモトヅイテ現役士官ニ任用セラレタ者
- (ロ) 召集中ノ豫備役ノ士官及特務士官ヲ海軍武官服役臨時特例ノ規定ニ依リ志願ニモトヅイテ現役ニ服シク者

二 復員業第八號ノ七〇

昭和二十一年七月一日

復員廳第二復員局人事部長

關係各廳長殿

業績事務取扱ニ關スル件通牒

業績事務ヲ促進スル爲昭和二十一年二復員局業第八號ノ三ニ依ル死歿者功績名簿中(様式第一)(軍人ノ部)ヲ別紙第一(様式第二)(軍人ノ部)ノ様ニ改メル。

(様式第二)(船員ノ部)及ビ(様式第三)(軍屬ノ部)ハ別紙第二(様式第二)(船員ノ部)及ビ別紙第三(様式第三)(軍屬ノ部)ニ依ル軍屬戰歿者報告(海軍諸例則卷二第十一類大東亞戰爭中戰歿者等身上取扱規則参照)ヲ代要シテモ差支ナイ。

追ツテ別紙第一ニ就イテ

- 一 地方復員局人事部長カラ特務士官以下ノ功績其中書類ヲ進達スルトキハ各地方復員局人事部長ニテアル功績カドヲ添エルコト(功績カドハ用済後返却スル)。
- 二 地方復員局人事部長ニ功績カドノ無イモノハ従前ノ様式(死歿者功績名簿(様式第一)(軍人ノ部))デ其中スルコト。

- 三 既ニ舊様式ヲ調製済ノ功績其中書類ハ舊様式デ其中シテ差支ナイ。
- 四 現ニ保管中ノ功績明細書、見認證書其ノ他功績調査上參考ト爲ル資料ハ努メテ之ヲ添エルコト。

(別紙添)

○ 雜 款

○ 郵便物發送先 特別輸送艦 國 後 靜岡縣小笠原郡池新田町池新田局氣付

(二復人業第八號ノ七〇別紙第一)  
(様式第一)(軍人ノ部)

艦船部隊名死歿者功績名簿

(昭和二十二年七月二日復員廳第二復員局公報)

調製者 職官 氏名

擬 叙		賞 賜		死 歿 年 月 日 状 況		電 報 符 號 又 ハ 入 籍 番 號		現 有 功 官 等		特 進 官 名 等	
(記 註 例)		(記 註 例)		(記 註 例)		(記 註 例)		(記 註 例)		(記 註 例)	
官 等	下 士 官 下 格	功 六	一八、三、三「ニューギニヤ」島「クレチン」岬南東約三十哩ニ於テ敵航空部隊ト戦闘朝潮沈没ノ際戦死	横 志 水 旭 八 曹	山 田 太 郎	三〇一二九二	曹	大、八、九、十二			
賞 格	殊 勳 乙 旭 七										

備 考

- 一 士官(豫備士官、候補生、見習尉官ヲ含ム)ト特務士官以下トニ分ケ更ニ各々ヲ航空關係員(搭乗員、整備員)トソレ以外ノ者トニ分ケ別紙トスルコト。
- 二 擬叙及ビ賞賜ノ欄ハ第二復員局人事事業課課デ記註スル。
- 三 死歿年月日場所並ニ狀況欄ニ戦死、戦傷死、戦病死及ビ公務死ノ別ヲ明記スルコト。
- 四 氏名ニハ振假名ヲ附シ舊氏名ノアル者ハ之ヲ附記スルコト。

(二) 復入業第八號ノ七〇別紙第二  
 (様式第二) (船員ノ部)  
 年 月 日

復員廳 總裁 殿  
 (、地方復員局長官)

船名(總噸數) 軍屬戰死者ノ件報告

(昭和二十一年七月二日復員廳第二復員局公報)

所 轄 長

戰年時 月	戰場	戰區 ノ分	戰歿ノ狀況	遺有 骨 ノ無	官 (職)	氏 名	本籍地	略 歴	遺 名 (續)	遺 所
〇八三〇	「スル」海 「カガヤ ン」諸島 東方海面	戰死	吉田丸敵潜水艦 ノ雷撃ヲ受ケ沈 没ノ際戰死	無	關上等機 (突待)	瑞六 岩谷太 大六八三	高知縣吉 川郡名野 川村三五	六二七 六二八 六二九 六三〇 六三一 六三二 六三三 六三四 六三五 六三六 六三七 六三八 六三九 六四〇 六四一 六四二 六四三 六四四 六四五 六四六 六四七 六四八 六四九 六五〇 六五一 六五二 六五三 六五四 六五五 六五六 六五七 六五八 六五九 六六〇 六六一 六六二 六六三 六六四 六六五 六六六 六六七 六六八 六六九 六七〇 六七一 六七二 六七三 六七四 六七五 六七六 六七七 六七八 六七九 六八〇 六八一 六八二 六八三 六八四 六八五 六八六 六八七 六八八 六八九 六九〇 六九一 六九二 六九三 六九四 六九五 六九六 六九七 六九八 六九九 七〇〇 七〇一 七〇二 七〇三 七〇四 七〇五 七〇六 七〇七 七〇八 七〇九 七一〇 七一一 七一二 七一三 七一四 七一五 七一六 七一七 七一八 七一九 七二〇 七二一 七二二 七二三 七二四 七二五 七二六 七二七 七二八 七二九 七三〇 七三一 七三二 七三三 七三四 七三五 七三六 七三七 七三八 七三九 七四〇 七四一 七四二 七四三 七四四 七四五 七四六 七四七 七四八 七四九 七五〇 七五一 七五二 七五三 七五四 七五五 七五六 七五七 七五八 七五九 七六〇 七六一 七六二 七六三 七六四 七六五 七六六 七六七 七六八 七六九 七七〇 七七一 七七二 七七三 七七四 七七五 七七六 七七七 七七八 七七九 七八〇 七八一 七八二 七八三 七八四 七八五 七八六 七八七 七八八 七八九 七九〇 七九一 七九二 七九三 七九四 七九五 七九六 七九七 七九八 七九九 八〇〇 八〇一 八〇二 八〇三 八〇四 八〇五 八〇六 八〇七 八〇八 八〇九 八一〇 八一一 八一二 八一三 八一四 八一五 八一六 八一七 八一八 八一九 八二〇 八二一 八二二 八二三 八二四 八二五 八二六 八二七 八二八 八二九 八三〇 八三一 八三二 八三三 八三四 八三五 八三六 八三七 八三八 八三九 八四〇 八四一 八四二 八四三 八四四 八四五 八四六 八四七 八四八 八四九 八五〇 八五一 八五二 八五三 八五四 八五五 八五六 八五七 八五八 八五九 八六〇 八六一 八六二 八六三 八六四 八六五 八六六 八六七 八六八 八六九 八七〇 八七一 八七二 八七三 八七四 八七五 八七六 八七七 八七八 八七九 八八〇 八八一 八八二 八八三 八八四 八八五 八八六 八八七 八八八 八八九 八九〇 八九一 八九二 八九三 八九四 八九五 八九六 八九七 八九八 八九九 九〇〇 九〇一 九〇二 九〇三 九〇四 九〇五 九〇六 九〇七 九〇八 九〇九 九一〇 九一一 九一二 九一三 九一四 九一五 九一六 九一七 九一八 九一九 九二〇 九二一 九二二 九二三 九二四 九二五 九二六 九二七 九二八 九二九 九三〇 九三一 九三二 九三三 九三四 九三五 九三六 九三七 九三八 九三九 九四〇 九四一 九四二 九四三 九四四 九四五 九四六 九四七 九四八 九四九 九五〇 九五二 九五三 九五四 九五五 九五六 九五七 九五八 九五九 九六〇 九六一 九六二 九六三 九六四 九六五 九六六 九六七 九六八 九六九 九七〇 九七一 九七二 九七三 九七四 九七五 九七六 九七七 九七八 九七九 九八〇 九八一 九八二 九八三 九八四 九八五 九八六 九八七 九八八 九八九 九〇〇	花子 (妻)	廣島縣吳 市松本町 六一五

- 備考
- 一 官(職)欄ニ奏功時ノ職(待遇)俸給ヲ記註スルコト。
  - 二 氏名(振假名ヲ附シ舊氏名アル者ハ之ヲ附記スル)欄ニ現有勳功及ビ生年月日ヲ記註スルコト。
  - 三 他省關係海軍部内異身分アル者ハ略歴欄ニ記註スルコト。



# 復員廳第二復員局公報

第九號

昭和二十一年七月三日(水)

第二復員局文書課

## ○令 達

復二第四八號

復員廳分課規程中次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年六月二十五日

復員廳 總裁

別紙第二二十八條ノ表中大阪地方復員局ノ項掃海部ノ欄「阪神」ヲ「神戸」ニ改メル。

復二第五〇號

第二復員部内職員給與規則ヲ次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年六月二十日

復員廳 總裁

第八條中「工作術」ノ下ニ「機雷術、魚雷術、水測術」ヲ加ヘル。

第十四條中左ノ但書ヲ加フ。

但シ自己ノ不攝生ニ因ル疾病又ハ故意ニ因ル傷痕疾病ニヨリ部外ニ治療ヲ委託シタル場合ヲ除ク。

附則

本則ハ昭和二十一年六月十五日以後ノ給與ニツキコレヲ適用ス

ル。但シ第八條ノ改正規定ハ昭和二十一年四月一日以後ノ給與ニツキコレヲ適用スル。

復二第五一號

元驅逐艦 神 風

右ノ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元軍艦 八 雲

右ノ特別輸送艦トシテ吳地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元海防艦 國 後

右ノ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十一年六月二十六日

復員廳 總裁

## ○通 牒

復二第四九號

復員廳地方復員局定員表(内譯)中次ノヤウニ改正セラレタ。

昭和二十一年六月二十五日

復員廳第二復員局長

大阪地方復員局ノ部「阪神掃海部」ヲ「神戸掃海部」ニ改メル。

復員廳第二復員局公報 第九號 昭和二十一年七月三日

二復總第三九號

昭和二十一年七月二日

復員廳第二復員局總務部長

關係各廳長殿

不攝生症ノ解釋ニ關スル件申進

復二第五〇號關聯首題ノ件ハ差當リスベテノ性病ヲ指スモノデ而モ急慢性及初發再發等ノ區別竝ビニ事前ノ豫防處置ノ有無ヲ問ハナイモノト了知アリタイ。尙ホ若干不攝生ニヨルト推定セラルル急性腸炎等ハ此ノ際本規則ニ包括センメル必要ハナイ。

二復人扶第一五號ノ二三

昭和二十一年六月二十一日

復員廳第二復員局人事部長

各地方復員局人事部長殿

自決者等ノ戰歿區分ニ關スル件照會

歸還者等ノ報告ニヨツテ新ニ判明シタ戰歿者ニ對シ、今後附與スベキ戰歿區分ノ標準ニ關シテハ、昭和二十年一月海軍省人事局刊行ノ「戰歿者等ノ定義ニ關スル解説」ニ準據シテ、慎重ニ詮衡決定サレタイノデアルガ、首題ノヤツナ自決者ニ對シテハ、ソノ所屬部隊方所謂玉碎部隊デアルカラ、コレヲ「戰死」トスル、或ハ前述ノ「解説」ニ基イテ、一律ニ「戰病死」トスル等概念的ニ區分スルコトナク、當時ノ戰鬪狀況ヲ詳細ニ研究

シク上、期日ヲ以テ「戰死」又ハ「戰病死」ノ原則的ニ區分ヲ制定シ、更ニ地域的戰鬪情況、當人ノ有リ得ベキ精神狀態等ヲ參酌、考察シテ、最モ妥當ナ戰歿區分ヲ附與スル様取り計ハレタイ。

例ヘバ沖繩ノ陸上戰鬪デハ、昭和二十年六月十三日、最高指揮官ガ、最後ノ突撃下令後、現地トノ通信連絡ガ杜絶シタカラ、コノ日ヲ以テ玉碎ト認定スルコトハ適當ト思ハレ、コノ日以後自決シタコトガ判明シタ者ハ、玉碎者ノ中ニ含メ、「戰死」トスルコトハ差支ヘナイガ、六月十三日以前自決シタコトガ判明シタ者ハ原則的ニハ「戰死」トスルコトハ不適當デアアル。然シソノ地域方熾烈ナ砲爆撃下ニアリ、且既ニ重傷ヲ受ケ、到底生還ヲ期シ得ナカツタ實狀デアレバ、「戰死」トシ差支ヘナイ理デアアル。

尙ソノ判定困難ヲ爲、戰歿區分附與ニ苦シムモノハ、反證ナキ限り善意ニ解釋シテ、然ルベク處理サレタイ。

○雜 談

○事務開始

關門、運航部 門司市西海岸通一丁目三號岸壁(舊武官府跡)  
(電話門司 三〇四二)

出張所 下關市  
若松市海岸通り(電話若松 一四九)

同 右

復員廳第二復員局公報

第一〇號

昭和二十一年七月六日(土)

第二復員局文書課

〇令 達

復二第四五號

昭和二十年内令第七號中次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年七月一日

復員廳總裁

横須賀掃海部ノ項ヲ削ル。

徳山掃海部ノ項掃海船名又ハ隻數ノ欄「雜役船(曳船)二隻」

ヲ「雜役船(曳船)六隻」ニ改メル。

佐世保地方復員局ノ項ヲ削ル。

佐世保掃海部ノ項掃海船名又ハ隻數ノ欄「天山丸、日斗丸、第

十六長運丸、第一開洋丸、第三開洋丸、有幸丸、北洋丸、第二

海洋丸」ヲ削ル。

舞鶴掃海部ノ項掃海船名又ハ隻數ノ欄ニ「雜役船(曳船)一隻」

ヲ加ヘル。

(參照 昭和三年十月六日第二復員省公報第一〇號)

復二第四六號

元第四百四號海防艦

元第五百五十四號海防艦

元第二百十七號海防艦

右ヲ掃海艦トシテ吳地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

復員廳第二復員局公報 第一〇號

昭和二十一年七月三日

三二

元海防艦 志 賀

元第十二號海防艦

元第二十二號海防艦

元第三十八號驅潜艇

汽船 天山丸

同 日斗丸

同 第十六長運丸

同 第一開洋丸

同 第三開洋丸

漁船 有幸丸

同 北洋丸

同 第二海洋丸

右ヲ掃海艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十一年七月一日

復員廳總裁

復二第五三號

自今特ニ定メルモノノ外特別輸送艦船及ビ掃海艦船ノ所管ヲ解

イタモノノ保管ハソノ際ニオケル所屬ノ地方復員局トシ、ソノ

保管員トシテ従前ノ定員ノ範圍内ノ人員ヲ當該地方復員局(運航部)ニ臨時増置スルコトガデキル。

昭和二十一年七月二日

復員廳 總裁

復二第六一號

第二復員部内勤續手当支給規則ヲ次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年七月四日

復員廳 總裁

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ前後ノ在職期間ハ之ヲ勤續期間ト看做シ通算ス。

(イ) 退官、退職、解雇若ハ解備又ハ離現役若ハ召集解除ト爲リタル者再ビ職員ニ任用又ハ採用セラレタルトキ。

(ハ)(ロ) 工員ヨリ職員ニ任用又ハ採用セラレタルトキ

(ハ) 東京都、北海道、府縣、市町村又ハ之ニ準ズルモノノ有給官吏(囑託者、雇員及傭人ヲ含ム)ヨリ職員ニ任用又ハ採用セラレタルトキ。

附則  
本則ハ昭和二十一年六月一日以後ノ給與ニツキコレヲ適用スル。

本則適用ニ依リ新ニ勤續手当ノ支給ヲ受クル資格ヲ具フルコトニナツタ者及ビ支給額ニ變更ヲ生ズルコトニナツタ者ニハ第九條ノ規定ニ拘ラズ昭和二十一年六月分ヨリ本則適用ニ依ル額ヲ支給スル。

復二第六二號

昭和二十年內令第七號中次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年七月五日

復員廳 總裁

下關掃海部ノ項掃海船名又ハ隻數ノ欄ニ「雜役船(曳船)一隻」ヲ加ヘル。

佐伯掃海部ノ項ヲ削ル。

舞鶴掃海部ノ項掃海船名ノ欄「同第百六十六號」ノ次ニ「同第百八十四號」ヲ加ヘル。

境掃海部ノ項ヲ削ル。

(參照 昭和二十年七月六日第二復員省公報第一〇號)

〇 通 牒

二復經契第三〇一號ノ一〇

昭和二十一年六月十六日

復員廳第二復員局經理部長

關係各廳長(殿)  
特別輸送艦艇長

日用品等配給品種標準改正ニ關スル件通知

二復經理局契九第一號ノ九〇(四月十七日公報參照)通知ノ首題標準ヲ別表ノ通り改メル。  
(別表添)



品名	引揚送艦船便 (乗中ノ軍官民乗) (航海ニツキ)	外地殘留員 (二補給ニ付)	引揚援護局收容 (中ノ軍官民乗) (一ヶ月ニ付)	掃海艇乗員及ビ 特別輸送艦艇乗 員(一ヶ月ニ付)	元海軍病院タリ シ国立病院收容 中ノ患者(一ヶ月ニ付)	管制艦ノ特ニ定 ムルモノ (一ヶ月ニ付)
煙草	四〇本以内	五〇本以内	五〇本	一五〇本以内		一〇〇本以内
日本酒		一合以内	一合以内	六合五勺以内		四合以内
ウキ酒		一合以内	一合以内	二分ノ一合以内		二分ノ一合以内
葡萄酒		一合以内	一合以内	二分ノ一合以内		二分ノ一合以内
浴用石鹼		一本以内	一本以内	二分ノ一本以内		二分ノ一本以内
洗濯石鹼		一本以内	一本以内	二分ノ一本以内		二分ノ一本以内
芥紙	四〇枚以内	一〇〇枚以内	二〇枚以内	六〇枚以内	三〇枚以内	三〇枚以内
風呂敷	三分ノ二本以内	一本以内		三分ノ二本以内	二分ノ一本以内	二分ノ一本以内
手拭	適宜	一本以内	適宜	適宜	適宜	適宜
調味品	一本以内			四分ノ一本以内	四分ノ一本以内	四分ノ一本以内
齒刷牙子	一本以内	二本以内	一本以内	一本以内	一本以内	一本以内
齒粉	一袋以内	二袋以内	一袋以内	一袋以内	一袋以内	一袋以内
縫糸	一足以内	一足以内	適宜	三分ノ一足以内	六分ノ一足以内	六分ノ一足以内
靴	二・五双以内	二・五双以内		六ヶ月ニ付 五双以内	六ヶ月ニ付 五双以内	六ヶ月ニ付 五双以内
便箋	一冊以内	三冊以内	一冊以内	一冊以内	一冊以内	一冊以内
封筒	五〇枚以内	一〇〇枚以内	二〇枚以内	一〇枚以内	一〇枚以内	一〇枚以内
インク		適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
ペン先	二本以内	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
紋取線香		一函以内	適宜	適宜	適宜	適宜
家庭薬	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
手袋		一雙		六分ノ一雙以内	三分ノ一雙以内	三分ノ一雙以内
マツチ	連軸一個以内	連軸四個以内	連軸一個以内	連軸二個以内	連軸二個以内	連軸一個以内
作業服						
襦袢						
作業帽						
脚絆	別ニ定ムル所ニヨル					
地下足袋						
布靴						
毛布						

(二復經製第三〇一號ノ一別表)

(昭和二十一年七月六日復員廳第二復員局公報)

# 復員廳第二復員局公報

第一一號

昭和二十一年七月十日(水)  
第二復員局文書課

## ○訓令

復二第七〇號

昭和二十一年七月八日

復員廳總裁 男爵 幣原喜重郎

復員事務官 中村勝平殿

任務ノ件訓令

貴官ハ第二復員局長附ノ配置ニオイテ聯合國諸機關ト第二復員局トノ連絡全般ニ互リ統制ノ任ニ當リ情況ニヨリ局長代理又ハ局代表トシテ直接折衝スルコトニ定メル。  
而シテ終戦連絡中央事務局ヲ通ジナイデ直接聯合國諸機關ト連絡スル場合ノ連絡責任者ニ指定スル。

## ○令 達

復二第七二號

昭和二十年内令第七號中次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年七月十日

復員廳 總裁

大竹掃海部ノ項掃海艦名ノ欄「片島」ノ前ニ「竹生(佐)」ヲ加ヘル。

復員廳第二復員局公報 第一一號 昭和二十一年七月十日

下關掃海部ノ項掃海艦名ノ欄「哨特第三百三十六號」ノ前ニ「鶴來(佐)」ヲ加ヘル。

舞鶴掃海部ノ項掃海艦名ノ欄「驅潛特第五十七號」ノ前ニ「新南(佐)」ヲ加ヘル。

神戸掃海部ノ項掃海艦名ノ欄「哨特第三十一號」ノ前ニ「生名(佐)」ヲ加ヘル。

(參照 昭和二十年三月六日第二復員省公報第一〇號)

復二第七三號

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メル。  
元 驅逐艦 沙 風

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

右ヲ特別輸送艦トシテ吳地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。  
元 第五十七號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。  
汽 船 千 歳 丸

同 太 西 丸

右ヲ特別輸送船トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十一年七月十日

復員廳 總裁

○雜 款

○郵便物發送先

特別輸送艦 海第七十九號 岡山縣玉野市玉 三井造船所氣付

病院 船 高 砂 丸 長崎縣佐世保市 佐世保郵便局氣付

掃海艦 生 名 神戸市生田區波止場町 中央突堤神戸掃海部氣付

特別輸送艦 海第五十六號 徳山掃海部氣付

同 梶 福岡市博多運航部氣付

同 鯨 福岡縣博多局氣付

○殘務整理班設置ノ件

「ボルネオ」民政部關係ノ殘務整理ノクメ六月十五日ヨリ七月十五日迄復員廳第二復員局内ニ「ボルネオ」民政部殘務整理ヲ設置シノノ事務ヲ開始シタ。

元第百二海軍燃料廠殘務整理ハ六月二十五日ヨリ復員廳第二復員局補給部デ開始。

特別輸送艦神風殘務整理ヲ七月一日ヨリ横須賀市久里濱横須賀

地方復員局運航部補充課内

○電話番號

三重地方世話部第二課 電話津 四番、四四番（夜間ハ四番ヲ使用）

○轉官

海軍技師窪田健次ハ五月四日、同沖 住雄、菊池繁雄、市川壽之ハ五月十一日、第二復員技官守田康太郎ハ六月十五日孰モ運輸技官ニ轉官シタ。

海軍書記前田 進ハ五月二十四日運輸事務官ニ、海軍書記松浦好文、海軍書記大澤吾郎、海軍書記鈴木昌夫ハ六月十五日内務事務官ニイヅレモ轉官シタ。

海軍書記柳橋徳太郎ハ五月十五日樺太廳屬ニ、海軍司政官鶴殿元一ハ六月十五日大藏事務官ニ、海軍書記田島勝男ハ六月十五日厚生事務官ニイヅレモ轉官シタ。

海軍司政官川崎信吉ハ六月十五日大藏事務官ニ轉官シタ。

海軍司政官平野元治郎ハ六月十五日遞信事務官ニ轉官シタ。

○正誤

第二〇四號二二八頁下欄七表目「海軍技師伊藤危雄」ハ「海軍技師伊藤危雄」ノ誤

復員廳第二復員局公報

第二二號

昭和二十一年七月十五日(月)

第二復員局文書課

命令

復員第五九號  
復員部内臨時手當支給規則ヲ次ノヤウニ改正スル。  
昭和二十一年七月四日

別表ヲ別表ノ如ク改メタル。

復員廳總裁

附則

則ハ昭和二十一年六月一日以後ノ給與ニツキコレヲ適用スル。  
(別表添)

復二第六七號

爾今當分ノ間除籍セラレタル掃海艦船又ハ特別輸送艦船ノ乗員ハ特ニ發令セラレルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒナイデソノ除籍ノ日附ヲ以テ各艦船所管ニ從ヒソノ巡航部勤務トナルモノトスル。

昭和二十一年七月一日

復員廳總裁

復二第七九號

當分ノ間掃海艦竹生、生名、鶴來及ビ新南ヲ掃海母艦ト呼稱シ

復員廳第二復員局公報 第二二號 昭和二十一年七月十五日

宛員ハコレヲ置カナイ。

前項ノ場合ニハ別表ノ人員ヲ所屬ノ掃海部ニ臨時増置シ掃海部長方乘艦ヲ命ズルモノトスル。  
昭和二十一年七月十日

復員廳總裁

(別表)

掃海母艦乘員表

艦長	二級事務官	一	(元兵科士官)
乘組	二級事務官	二	(元兵科特務士官、水一、機二)
乘組	三級事務官	十二	(元兵曹六、機曹五、主曹一)
乘組	員	十三	(元水兵六、機兵五、主兵二)
合計		二十八人	

復二第八五號

左記掃海母艦ノ乗員ハ特ニ發令セラレルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒナイデソノ所屬掃海部ノ勤務トナリタルモノト心得ヨ。  
昭和二十一年七月十日

復員廳總裁

掃海母艦 竹生

復員廳第二復員局公報 第二二號 昭和二十一年七月十五日

二六

同 生 名  
同 鶉 來  
同 新 南

○ 通 牒

恩第三六四號

昭和二十一年七月十二日

復員廳第二復員局人事部長

各 廳 長 殿

恩給法ノ適用ニ關スル件通牒  
本年勅令第六十八號(恩給法特例)ニヨリ復員省部内ノ公務員  
(本年勅令第四號ニ定ムル者ヲ除ク)ニハ、公務傷病ノ場合ニ同  
令ニ於テ定メラレタ增加恩給又ハ傷病賜金ヲ給セラレル外恩給  
ハ給セラレナイコトニナツテ居タガ、六月四日勅令第三百四號  
改正ニヨツテ勅令第六十八號ハ昭和二十一年十二月一日以後復員  
部内ノ公務員ニハ適用ガナイコトニナツタ。從ツテ復員省部内  
ノ公務員ハ恩給法上他ノ一般公務員ト同様ノ取扱ヲ受ケル。  
海軍文官ヲ昭和二十一年十二月一日第二復員省官制施行後モ原官  
名ノ儘在職スル者ハ勅令第六十八號ニ定メラレテアル海軍部内  
ノ公務員トシテ取扱ハレル。

參照

同 昭和二十一年二月一日附官報勅令第六十八號  
同 年二月二日附官報勅令第四號  
同 年六月五日附官報勅令第三百四號  
日附官報勅令第五十九號

恩第三六五號

昭和二十一年七月十二日

復員廳第二復員局人事部長

各 廳 長 殿

公務傷病者ニ對スル證明書類ノ件通牒  
第二復員省及復員廳第二復員局所屬ノ公務員又ハ其ノ遺族ニシ  
テ恩給法ニヨリ公務傷病ニ因ル恩給又ハ扶助料ヲ給セラレルモ  
ノト認ムルモノニツイテハ、恩給取扱手續(昭和十六年達第二  
百三十一號)ニ準ジ證明書類ヲ作成シ進達サレタイ。  
昭和二十一年九月三日以後外地ニ在ツテ歸還待機中生ジタ者ノ傷  
病ニツイテハ、公務關係ハ認メ難イトノ内閣恩給局ノ見解デア  
ル。

恩第三六六號

昭和二十一年七月十二日

復員廳第二復員局人事部長

各 廳 長 殿

昭和二十一年勅令第九號第三條該當者ノ恩  
給廢止ニ伴ヒ履歷書記入事項ノ件通牒  
首題ニツイテ内閣恩給局長カラ別紙(第一及第二)ノ通り通牒  
ガアツタ。之ニ該當スル者ガアツタトキハ海軍文官身上取扱規  
則中履歷書記入事項ニ關スル規定ノ例ニヨツテ處理シ、履歷書  
ノ記載ヲ的確ニシテ恩給取扱上遺漏シ生ズルコトノナイヤウ取  
計ハレタイ。

(參照)

勅令第百九號

(昭和二十一年二月二十八日附官報)

第一條

昭和二十一年一月四日附聯合國最高司令官覺書公務從事ニ適セザル者ノ公職ヨリノ除去ニ關スル件ニ掲グル條項ニ該當スル者トシテ内閣總理大臣ノ指定スル者(以下覺書該當者ト稱ス)ニシテ通常勅任待遇以上ノ者ノ占ムル官職ニ在ルモノハ退官又ハ退職セシメラレ爾後官職ニ就クコトヲ得ズ前項ノ規定ニ該當スル者ニ付餘人ヲ以テ代フルコト困難ナル事情アルトキハ同項ノ規定ニ拘ラズ内閣總理大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ者ヲ官職ニ留任又ハ再任セシムルコトヲ得覺書該當者ハ第一項ノ規定ニ該當セザル者ト雖モ官職ニ就カシメザルコトアルベシ

第二條

前條ニ於テ官職トハ官廳ノ特別ノ支配ニ屬スル會社、協會其ノ他ノ團體トシテ内閣總理大臣ノ指定スル團體ノ職員ノ職ヲ含ムモノトシ通常勅任待遇以上ノ者ノ占ムル官職トハ此等ノ團體ニ付テハ其ノ幹部タル職員ノ職ニシテ内閣總理大臣ノ指定スルモノヲ謂フ

第三條

第一條第一項ノ覺書ニ基キ退官又ハ退職シタル者ハ内閣總理大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外公私ノ恩給、年金其ノ他ノ手當又ハ利益ヲ受クルコトヲ得ズ

(申略)

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

恩給給與規則

(大正十二年八月二十二日勅令第三百六十九號)

第三十二條

年金タル恩給ヲ受クル者國籍ヲ失ヒ、死亡シ又ハ恩給法第八十條ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失フ場合ニ於テハ本人遺族又ハ縁故者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十四條

第三十條乃至前條ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳トカ異ルトキハ裁定官廳ニ對スル通知又ハ届出ハ支給廳ヲ經由スヘシ

(別紙第一)

恩審發第十七號

昭和二十一年六月二十四日

第二復員局長殿

内閣 恩給局長

昭和二十一年勅令第百九號第三條該當者ノ恩給廢止手續ニツイテ

右ノ件ニツイテハ、勅令公布ト同時ニ恩審發第六號ヲ以テ、一應通知致シテ置イタ次第モアリ、既ニ、ソノ恩給廢止ニ關シテハ、夫々必要ノ措置ヲ講セラレテキルコトト思ハレルガ、仍左ノ諸點、特ニ御留意ノ上、遺漏ノナイヤウ、御取計ラヒ願ヒ度ク念ノクメ通知スル。又本件ニツイテハ貴廳管下ノ諸官廳ニモソノ趣旨方徹底スルヤウ取計ラハレ度イ。

記

復員廳第二復員局公報 第二二號

昭和二十一年七月十五日

二七

一 本勅令第一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依ツテ(勅令第二條ニ依ツテ、同第一條ニ含まレタル場合ヲ含ム)、退官又ハ退職シタ者ハ、恩給ヲ受ケル權利又ハ資格ヲ失フモノデアルコトヲ明ラカニスルタメ、退官又ハ退職當時ノ本屬廳ノ履歷本簿ニ、退官事由ヲ、例ヘバ「昭和二十一年勅令第九號第一條ニ依ツテ退官又ハ退職」ニ依ツテ、第一條ニ含まレタル場合ニハ、「昭和二十一年勅令第九號第一條」ニ依ツテ、何々ヲ退職」ト、記載スル等ノ措置ヲ講ジ、後日ノ恩給書類ノ取扱ヒニ資セラレ度イ。

二 右第一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依ツテ、退官又ハ退職シタ者ガ、新ニ恩給ヲ請求シタ場合及ビ既得ノ恩給ヲ再任ニ依ツテ改定スルヤウ請求シタ場合ニハ、ソノ權利ガナイモノトシテ棄却サレルノデ、ソノ申達ニツイテハ、一般無權利者ノ場合ト同様ニ取扱ハレ度イ。

三 右第一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依ツテ退官又ハ退職シタ者ハ、既ニ年金恩給ヲ受ケテ、再就職シ、ソノ再就職ノ理由ノ理由デ退官又ハ退職シタ場合ハ勿論、既ニ年金恩給ヲ受ケテ、本勅令第二條ノ職ニ就キ、ソノ職ヲ右ノ理由デ退職シタ場合ニモ、既得ノ年金恩給權ヲ失フノデ、後ノ退官又ハ退職當時ノ本屬廳又ハ本勅令第二條ノ團體ヲ支配スル官廳ハ、右該當者ニツイテ既得恩給ノ有無ヲ調査シテ、ソノ者ニツイテハ、恩給給與規則第三十二條及ビ第三十四條ノ規定ニ依ツテ、恩給權喪失ノ旨ヲ、速ヤカニ、裁定廳ニ通知(支給廳ト

裁定廳ト方異ナル場合ニハ、支給廳ヲ經山シテ)スルヤウ、取計ラハレ度イ。

(別紙第二)

恩給發第六號

昭和二十一年三月三十日

内閣恩給局審査課長

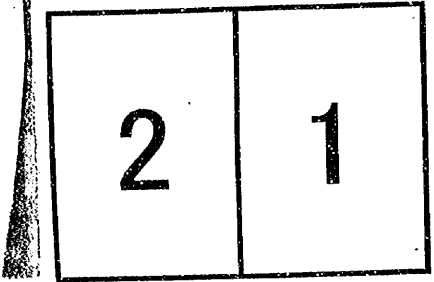
第二復員省人事局扶助課長殿

恩給請求書ノ進達ニ關スル件  
昭和二十一年勅令第一〇九號就職禁止、退官、退職等ニ關スル件公布セラレ本年一月四日附聯合國最高司令官ノ覺書ニ基キ退官又ハ退職シタル者ハ右勅令第三條ノ規定ニ依リ恩給ヲ受ケルコトヲ得ザルコトト相成候ニ付テハ右一月四日以後退官又ハ退職シタル者ノ恩給請求書進達ハ右條項ニ該當セザルコト確實ナルモノニ限リ且其ノ旨附記セラルル様特別ノ御配慮相煩度此段及通牒候

○ 雜 款

○ 正誤  
六月十四日附第二復員省公報第一〇四號ノ四三三四頁上欄中博多船運航部電話番號「(電)東〇九五」ハ「(電)東〇六九五」ノ誤

## 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 版以上のため
文書等名	臨時手当支給額表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	





七〇	一四〇	一一九	九八
八〇	一六〇	一三六	一一二
九〇	一八〇	一五三	一二六
一〇〇	二〇〇	一七〇	一四〇
一一〇	二二〇	一八七	一五四
一二〇	二四〇	二〇四	一六八
一三〇	二六〇	二二一	一八二
一四〇	二八〇	二三八	一九六
一五〇	三〇〇	二五五	二一〇
一六〇	三二〇	二七二	二二四
一七〇	三四〇	二八九	二三八
一八〇	三六〇	三〇六	二五二
一九〇	三八〇	三二三	二六六
二〇〇	四〇〇	三四〇	二八〇
二一〇	四一八	三五六	二九三
二二〇	四三六	三七一	三〇五
二三〇	四五四	三八六	三一八
二四〇	四七一	四〇〇	三三〇
二五〇	四八八	四一五	三四三
二六〇	五〇五	四二九	三五四
二七〇	五二二	四四三	三六五
二八〇	五三八	四五七	三七七
二九〇	五五四	四七一	三八八
三〇〇	五七〇	四八五	三九九
三一〇	五八六	四九九	四一一
三二〇	六〇二	五一二	四二二
三三〇	六一八	五二五	四三三
三四〇	六三三	五三八	四四三
三五〇	六四八	五五一	四五四
三六〇	六六三	五六四	四六四
三七〇	六七八	五七六	四七四
三八〇	六九二	五八八	四八五
三九〇	七〇六	六〇一	四九五
四〇〇	七二〇	六一二	五〇四
四一〇	七三四	六二四	五一四
四二〇	七四八	六三六	五二四
四三〇	七六二	六四七	五三三
四四〇	七七五	六五九	五四三
四五〇	七八八	六七〇	五五二
四六〇	八〇一	六八一	五六一
四七〇	八一四	六九二	五七〇
四八〇	八二六	七〇二	五七八
四九〇	八三八	七一三	五八七
五〇〇	八五〇	七二三	五九五
五一〇	八五七	七二九	六〇〇
五二〇	八六四	七三五	六〇五
五三〇	八七〇	七三九	六〇九
五四〇	八七五	七四四	六一三
五五〇	八八〇	七四八	六一六
五六〇	八八五	七五三	六二〇
五七〇	八九〇	七五六	六二三
五八〇	八九四	七六〇	六二六
五九〇	八九七	七六三	六二八
六〇〇	九〇〇	七六五	六三〇
六一〇	九〇三	七六八	六三二
六二〇	九〇六	七七〇	六三四
六三〇	九〇八	七七二	六三六
六四〇	九〇九	七七三	六三七
六五〇	九一〇	七七四	六三七
六六〇	九一一	七七五	六三八
六七〇	九一二	七七五	六三八
六八〇	九一二	七七五	六三八

# 復員廳第二復員局公報

第一三號

昭和二十一年七月十七日(水)  
第二復員局文書課

## ○令 達

復二第八八號

第二復員省經理局臨時處理班規程ハ復員廳第二復員局經理部ニコレヲ適用スル。

昭和二十一年六月十五日

復員廳總裁

復二第八九號

復員廳分課規程中次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年七月十五日

復員廳總裁

別紙第二二十八條ノ表中横須賀地方復員局ノ項掃海部ノ欄「横須賀」ヲ、舞鶴地方復員局ノ項掃海部ノ欄「境」ヲ削ル。

(六月二十日第二復員局公報参照)

復二第九〇號

復員廳地方復員局定員表(内譯)中次ノヤウニ改正サレタ。

昭和二十一年七月十五日

第二復員局長

横須賀ノ部中掃海部ノ項ヲ削リ「二〇六」ヲ「二八九」ニ、「六

九〇」ヲ「五七〇」ニ、「一、五〇〇」ヲ「一、四一〇」ニ、舞鶴ノ部中掃海部ノ項ヲ削リ「一八六」ヲ「一七六」ニ、「四四三」ヲ「四二五」ニ、「九二三」ヲ「九一一」ニ、合計ノ項「一、二六四」ヲ「一、二三七」ニ、「三、九三八」ヲ「三、八〇〇」ニ、「六、六八〇」ヲ「六、五七八」ニ改メル。

(六月二十日第二復員局公報参照)

復二第九一號

復二第七號復員事務官ノ定員ニ關スル件中次ノヤウニ改正サレタ。

昭和二十一年七月十五日

第二復員局長

横須賀地方復員局ノ項「四八」ヲ「三一」ニ、「二六七」ヲ「二四七」ニ、舞鶴地方復員局ノ項「三五」ヲ「二五」ニ、「二一九」ヲ「二〇一」ニ、計ノ項「三五二」ヲ「三三三」ニ、「一、六九〇」ヲ「一、五五二」ニ改メル。

(六月十九日第二復員局公報参照)

## ○通 牒

復員廳第二復員局公報 第一三號 昭和二十一年七月十七日

二九

二復總七四第號

昭和二十一年七月十三日

復員廳第二復員局總務部長

關係各廳長殿

引揚指導要員艦船便乗ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ昭和二十一年二月七日引揚者受入態勢整備強化ニ關スル次官會議決定ノ趣旨ニ基キ上陸地ニオケル引揚業務ノ齊整迅速化ト引揚者ニ對スル指導及ビ内地事情傳達等ノ目的ヲ以テ差當リ右業務ノタメ特別ノ教育ヲ受ケタ第一復員局關係要員方各引揚艦船ニ便乗シテ舊陸軍關係復員者ニ對スル指導ソノ他復員事務ノ遂行ニ當ツテキルノデアルカラ關係各廳ハ右ノ趣旨ヲ體シ快クコレニ協力スルヤウ取計ハレタイ。但シ艦内ニオケル便乗者ノ秩序維持統制ハイフマデモナク艦(艇)長ノ責務デアリ、復員指導要員ニ對シテハ單ニ便乗ヲ許可シ、ソノ艦内事務遂行ニ便宜ヲ供與スル範圍ヲ出デナイノデアルカラ若シ右指導要員中ニ素質不良ニシテ乘員及ビ引揚者ニ對シ却ツテ惡影響ヲ及ボス者アリト認メラレル場合ハソノ都度具體的事例ヲ附シ、ソノ氏名ヲ報告サレタイ。ナホ艦(艇)長ニ於テ適當ト認メル場合ハ便乗中ノ舊海軍關係引揚者又ハ一般邦人ニ對シテモ内地事情説明等ニツイテ右指導要員ヲ活用シ差支ナイ意圖デアアル。

○雜 款

○郵便物發送先

特別輸送艦 海第八十七號 鹿兒島上陸地連絡所氣付  
特別輸送艦 輪第百七十三號 福岡縣福岡市  
博多艦船運航部氣付

同 海第二百五號 同

同 掃第二十一號 同 舞鶴地方復員局艦船運航部氣付

同 八 雲 福岡縣福岡市  
博多上陸地連絡所氣付

同 海第四十四號 鹿兒島市住吉町海兵通  
(舊ポートデレククター跡)

○移轉

福井地方世話部第二課ハ七月五日ヨリ福井市寶水中町福井地方世話部内

(電話福井 五一番)

○殘務整理

特別輸送艦國後殘務整理班ハ六月二十九日ヨリ横須賀地方復員局運航部補充課内

○出張所及事務所閉鎖

吳地方復員局補給部佐伯出張所ハ六月三十日ヲ以テ閉鎖  
堀内機關(京都市所在)ハ解散シテソノ事務所ヲ閉鎖シタ。

# 復員廳第二復員局公報

第一四號

昭和二十一年七月十九日(金)

第二復員局文書課

○通 牒

二復經主第七號ノ八〇

昭和二十一年七月十八日

復員廳第二復員局經理部長

關係各廳長殿

接待費、交際費及ビ報償費ノ支拂ニ關スル件

通牒

首題ノ件ニ關シ別紙ノヤツニ大藏大臣官房會計課長ヨリ通牒ヲ  
アツタカラテ知サレタイ。

(別紙)

藏會第六九八號

昭和二十一年七月二日

大藏大臣官房會計課長 正示啓次郎

第二復員局經理部長殿

接待費、交際費及報償費ノ支拂ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通大藏次官ヨリ通牒ガアツタカラ取扱上  
遺漏ナキヤツ期セラレタイ。此ノ旨通牒スル。

官房秘乙第二二一號

昭和二十一年七月二日

復員廳第二復員局公報 第一四號

昭和二十一年七月十九日

三一

大藏次官殿

大藏次官 岡

接待費、交際費及報償費ノ支拂ニ關スル件

接待費、交際費及報償費ハ大藏省令第二十四號(國又ハ都道府  
縣其ノ他地方公共團體受拂等規則)第一條第一項第五號ノ規定  
ニ依リ一件五百圓未滿ノ同經費ニ限リ大藏大臣ノ指定シテ經費  
トシテ自由支拂ヲシテモ差支ヘナイコトナリ、右經費ノ支拂  
ニ際シテノ金融機關トノ關係等ニツイテハ從來ノ機密費支拂ノ  
方法ト同様ノ取扱ヲ爲スコトトナツタカラ御了知ノ上關係ノ向  
ヘ連絡方御取計アリタイ。

二復經主第七號ノ七八

昭和二十一年七月十八日

復員廳第二復員局經理部

關係各廳殿

朝鮮人、臺灣人及ビ中國人勞務者ノ給與等ニ  
關スル件通知

首題ノ件ニ關シ厚生省勞政局給與課長カラ別紙ノ通知ガアツタ  
カラ了知アリタイ。

(別紙)

給發第六〇號

昭和二十一年七月三日

厚生省勞政局給與課長

第二復員局主計課長殿

朝鮮人、臺灣人及ビ中國人勞務者ノ給與等ニ

關スル件

豫而御協議ヲ御願ヒシマシタ標記ノ件ニツイテハ、別紙ノ通り決定ノ上地方長官宛通牒サレタカラ御詔承ノ上關係方面へ徹底方御取計ヒ願ヒマス。

(別紙寫)

厚生省發勞第三六號

昭和二十一年六月二十一日

厚生、次官

各地方長官殿

朝鮮人、臺灣人及ビ中國人勞務者ノ給與等ニ

關スル件

標記ノ件ニ關シテハ本年一月十日厚生省令第二號「昭和二十年勅令第五百四十二號ニ基テ勞務者ノ就職及從業ニ關スル件」ニ基キ一月十七日厚生省發勤第二號「昭和二十一年一月十日厚生省令第二號事務取扱ニ關スル件」トシテ命ニ依ツテ通牒シテ置イタガ、マダソノ徹底ヲ缺ク向モアルト聞ク。特ニ貸金勞働時間ソノ他ノ勞働條件ニツイテ日本人ノ一般水準ニ比シテ尙或ハ高ク或ハ低イモノガアルトノコトデアルガ、コレデハ前記省令

ニ違反スルコトナルノデ前記省令第一條ヲ完全ニ履行スル様コレヲノ勞務者ヲ現ニ使用シ又ハ使用シタ事業主ニ徹底サレクイ。  
尙貸金ニ關シテハ前記省令ノ趣旨ヲ勘案シ左記ノ通關係者ヲ指導サレクイ。

記

一、前記省令ハ昭和二十一年一月十日ヨリ施行サレテキルガ別添司令部覺書ノ趣旨ニ鑑ミ、特ニ貸金(退職手當ヲ除ク)ニ關シテハ前記省令ノ趣旨ヲ昭和二十一年十一月二十八日迄遡ツテ實施サセルコト。

二、退職手當ニ關シテハ前記省令ノ趣旨ヲ昭和二十年九月二日迄遡ツテソノ期日以降ノ退職ノ場合ニ實施サセルコト。

三、昭和二十年十一月二十七日及ビ同年九月一日以前ニ遡ツテ前記省令ノ趣旨ヲ事業主ニ實施サセザルトスル要求ハ法令上ノ根據ガナイバカリデナク不當デアルコト。尙コノヤウヲ要求ハ或ハ將來日本政府ニ對スル全般的ヲ要求ノ中ノ一項目トナリ得ルカモ知レナイト想ハレルガ、現在事業主トコレヲノ勞務者ノ問題トシテ個々ニ處理スベキ限リデナイコト。

四、從ツテ昭和二十年十一月二十七日以前ノ貸金(退職手當ノ除ク)及ビ同年九月一日以前ノ退職手當ハ昭和二十年十一月二十八日及ビ同年九月二日以後ノモノニ比シテ低イト云ノ理由デ差額ノ事業主ニ要求スルコトハ法令上ノ根據ガナイバカリデナク不當デアルコト。

五 労働組合法第二條ノ規定ニ該當スル労働組合ニアラザル朝鮮人聯盟ソノ他ノ類似團體ハ現ニ日本ニ居ルカ又ハ既ニ歸國シタ朝鮮人、臺灣人及ビ中國人ノ爲ニ賃金ニ關シテ事業主ト交渉スル權限ヲ有シナイジ、又金ヲ集メル權限モ有シナイコト。但シ民法ニヨル委任ヲ受ケタ場合ハ此ノ限リデハナイコト。

(参考)  
厚生省令第二號

昭和二十年勅令第五百四十二號ニ基ク勞務者ノ就職及從業ニ關スル件左ノ通定ム

昭和二十一年一月十日

厚生大臣 芦田 均

第一條 工場、事業場其ノ他ノ場所ノ事業主ハ其ノ使用スル勞務者ノ賃金、給料、就業時間其ノ他ノ労働條件ニ關シ其ノ国籍、宗教又ハ社會的地位ノ故ヲ以テ當該勞務者ニ對シ有利又ハ不利ナル差別的取扱ヲ爲スコトヲ得ズ

第二條 地方長官又ハ勤勞署長本令ノ施行ニ關シ必要アリト認ムルトキハ關係者ヨリ報告ヲ徵スルコトヲ得

地方長官又ハ勤勞署長本令ノ施行ニ關シ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ關係ノ工場、事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ就業ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス別表證明ヲ携帯セシムベシ

第三條 第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 第二條第一項ノ規定ニ依リ報告ヲ怠リ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三條又ハ前條前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ前二條ノ罰金ヲ科ス

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(参考)

厚生省發勤第二號

昭和二十一年一月十七日

厚生 次 官

昭和二十一年一月十日厚生省令第二號事務取扱ニ關スル件依命通牒

昭和二十年勅令第五百四十二號ニ基ク勞務者ノ就職及從業ニ關スル厚生省令第二號一月十日公布相成候處其ノ實施運用ニ就テハ特ニ左記御了知ノ上遺憾ナキノ期セラレ度此段依命及通牒候也

追テ本令ハ昭和二十年十二月十九日勅發第一一六六號就職並ニ勞務管理ニ關スル件通牒左記第一項乃至第三項ノ法令化セ

復員廳第二復員局公報 第一四號 昭和二十一年七月十九日

三三

ラレタルモノニ有之爲念

記

一 本令ハ國籍、宗教又ハ社會的地位ノ故ヲ以テ勞務者ノ勞働條件ニ關スル差別的取扱ヲナサザルコトヲ日途トシテ制定セラレタルモノナルコト即チ

1 國籍ニ關シテハ朝鮮人、臺灣人及支那人其ノ他ノ外國人ニシテ日本在留ヲ希望スルモノタルト本國歸還待機中ノモノタルトヲ開ハズ總テ就職又ハ從業ニ關シテハ日本人ト同等ノ取扱ヲ受クルモノナルコト

2 差別的取扱ノ禁止トハ技能、能力其他ノ條件ニ於テ同等程度ナル日本人ト同等ノ權利、特權、恩典、機會ヲ與フルコトヲ意味シ不利ナル取扱ハ勿論特ニ有利ナル取扱モナスコトヲ得ザルモノナルコト但シ其ノ職歴、技能、能力等ニ應ジタル取扱ヲ爲スハ何等差支ナキコト

3 尙社會的地位トハ所謂同和事業ノ對象タル者ヲ特ニ顧慮シタル謂ナルコト

二 勤勞署ハ其ノ機能上勞務者ニ就職又ハ從業ノ機會ヲ附與スル場合多キヲ以テ特ニ其ノ機會附與ニ關シテハ適正ナル取扱ニ意ヲ用ヒ萬遺漏ナキヲ期スルコト

尙此ノ場合本令ニ悖ル取扱アリタルトキハ本令ニ基ク罰則ノ適用ハナキモ文官懲戒令ノ適用ヲ受クルモノナルヲ以テ特ニ注意スルコト

三 本令ノ對象ハ民業ノミナルモ官業ニ就テハ別途各省ヨリ大

々管外關係各廳宛訓令セララルコトトナリ居ルヲ以テ民業タルト官業タルトノ間ハズ勞務者ヲ使用スル工場、事業場其ノ他ノ場所ニ本令趣旨ノ徹底ヲ圖リ差別的取扱ノ絶無ヲ期スルコト。

○雜款

○郵便物發送先

特別輸送艦 隱 岐 博多郵便局氣付

同 葛 福岡縣福岡市博多上陸地連絡所氣付

同 海軍第三十四號 同

○殘務整理班設置ノ件

元「ニユ一ギニア」民政府及ビ第二十八海軍建設部關係殘務整理ノタメ復員廳第二復員局内ニ第二十八海軍建設部殘務整理班ヲ設置シソノ事務ヲ開始スル。

○轉官

海軍書記沖宗源之助(七七)ハ五月三十一日運輸事務官ニ、海軍技手丸山 進(八三)ハ六月六日運輸技官ニ執モ轉官シタ。

○改姓

復員事務官古川 勇(五二)ハ山本ト改姓ノ旨昭和二十一年七月一日届出。



# 復員廳第二復員局公報

第一五號

昭和二十一年七月二十二日(月)  
第二復員局文書課

## ○令 達

復二第一〇一號

昭和二十年内令第七號中次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年七月二十日

復員廳 總裁

大竹掃海部ノ項掃海艦名ノ欄「同第二百二十七號」ノ次ニ「同第八十九號(佐)、同第九十九號(佐)、同第百五十四號(佐)、同第百五十八號(佐)、同第百六十八號(佐)、同第百六十九號(佐)、同第百七十三號(佐)、同第百三十一號(佐)、同第百三十四號(佐)、同第百四十七號(佐)、同第百五十號(佐)」ヲ加ヘル。

下關掃海部ノ項掃海艦名ノ欄「同第二百四十九號(佐)」ノ次ニ「同第五十八號(大)、同第七十二號(大)、同第七十八號(大)、同第百八十一號(大)、同第百九十四號(大)、同第百九十六號(大)、同第百二十三號(大)、同第百二十二號(大)」ヲ加ヘル。  
佐世保掃海部ノ項ヲ削ル。

舞鶴掃海部ノ項掃海艦名ノ欄「新南(佐)」ノ次ニ「哨特第八十四號」ヲ「驅潜特第五十七號」ノ次ニ「同第百五十七號、同第百六十二號」ヲ、「同第百十九號」ノ次ニ「同第百三十六號」ヲ加ヘル。

號」ヲ加へ、掃海船名又ハ隻數ノ欄「雜役船(曳船)一隻」ヲ「雜役船(曳船)二隻」ニ改メル。

敦賀掃海部、七尾掃海部及ヒ新潟掃海部ノ各項ヲ削ル。

神戸掃海部ノ項掃海船名又ハ隻數ノ欄「第三高島丸」ヲ削ル。  
大湊掃海部ノ項掃海艦名ノ欄「驅潜特第五十八號、同第七十二號、同第七十八號、同第百八十一號、同第百九十四號、同第百九十六號、同第百三號、同第百三十二號」ヲ削ル。

(參照 昭和二十年三月六日第二復員省公報第一〇號)

復二第一〇二號

元第十六號掃海特務艇

右ヲ掃海艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

汽船 第三高島丸

右ヲ掃海艦トシテ大阪地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十一年七月二十日

復員廳 總裁

復二第一〇三號

當分ノ間次ノヤウニ人員ヲ臨時増置スル。

昭和二十一年七月二十日

復員廳 總裁

復員廳第二復員局公報 第一五號 昭和二十一年七月二十二日

三五

佐世保地方復員局(人事部)

復員事務官 二級 一人(沖組班ニ配スル者)

復員事務官 二級 一人(履歷事務)

復二第一〇四號

復員廳分課規程中次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年七月十五日

復員廳 總裁

別紙第二二十四條第七號ニ左ノ但書ヲ加ヘル。

但シ、横須賀地方復員局總務部ヲ除ク

同第二十八條表中實施事項等ノ項運航部ノ欄ニ左ノ一號ヲ加ヘル。

四 艦船ノ修理並ビニ資材及ビ部品ノ保管及ビ供給ニ關スル事項。但シ、横須賀運航部ニ限ル。

(參照 六月二十日第二復員局公報)

○ 通 牒

復二第一〇五號

復員廳地方復員局定員表(內譯) 中次ノヤウニ改正サレタ。

昭和二十一年七月十五日

復員廳第二復員局長

横須賀ノ部中總務部ノ項「三六」ヲ「二五」ニ、復員事務官(三級)「二五」ヲ「二〇五」ニ、雇員、傭人「二二五」ヲ「七〇」

ニ、運航部ノ項「五二」ヲ「六二」ニ、「二五〇」ヲ「二六〇」ニ、「二二五〇」ヲ「二九五」ニ改メル。

(參照 六月二十日第二復員局公報)

○ 雜 款

○郵便物發送先

海第六十七號 福岡市

特別輸送艦 海第三十四號 福岡市

同 博多地方復員艦船運航部留置

同 博多上陸地連絡所氣付

同 同 博多局氣付

同 花 月 博多上陸地連絡所氣付

家族

# 復員廳第二復員局公報

第一六號

昭和二十一年七月二十七日(土)

第二復員局 勸業課

計

○令 達

復二第一〇七號

復員廳分課規程中次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年七月二十日

復員廳 總裁

別紙第二第三十八條ノ表中央地方復員局ノ項掃海部ノ欄「佐伯、シヲ削ル。

(参照 六月二十日第二復員局公報)

復二第一一一號

掃海基地設置ニ關シ次ノヤウニ定メル。

昭和二十一年七月十五日

復員廳 總裁

一 目的

掃海再興迄確實ニ當該基地ノ施設、物件ヲ保管スルコト

二 設置期日

掃海部所在地ニ在ツテハソノ掃海部解消ノ時(酒田ハ新潟掃

海部解消ノ時)

三 編成

前項ノ人員ハ所屬ノ地方復員局(總務部)ニ臨時増置スル	酒田	計	二	六	〇	〇
	敦賀	附	一	二	〇	〇
境	二級事務官	三級事務官	指揮官	元水兵科ノモノ	元機關科ノモノ	元主計科ノモノ
德山	別ニ定メル	三級事務官	指揮官	元水兵科ノモノ	元機關科ノモノ	元主計科ノモノ
掃海基地	所屬	人員	職員	保管要領	備考	
德山	中央地方復員局	別ニ定メル	職員	基地ノ物件ハ掃海再興迄最寄リノ掃海部又ハ地方復員局補給部ニ送付又ハ還納スルノシ立前トシ萬巴ムヲ得ナイモノダケ現場ニ保管スルモノトスル	基地ハ地方復員局長ガ適宜變更スルコトガ出來ルコト場合ニハ豫メ認可ヲ受ケネバナラヌ	

復員廳第二復員局公報 第一六號 昭和二十一年七月二十七日

三七

1165

各基地指揮官ハ掃海再興迄ソノ港ニ出入スル艦船ヲ毎土曜日  
締切リテ報告スルコト

復二第一〇九號

當分ノ間特別輸送艦船ノ定員ヲ別表ノヤウニ定メル。

昭和二十一年內令第二二號、同年內令第三三號、同年內令第三  
四號及ビ同年內令第六七號ハコレヲ廢止スル。

昭和二十一年七月二十五日

復員廳 總裁

(參照)

廢止內令ハ特別輸送艦船ノ定員試行、北上、輸  
第一七四號、冬月ノ定員、元月型驅逐艦ニ二級  
事務官(元兵科特准、機)一人臨増ノ件デアル。  
(別表後送)

○ 通 牒

復二第一〇八號

復二第七號復員事務官ノ定員ニ關スル件中次ノヤウニ改正サレ  
ク。

昭和二十一年七月二十日

復員廳第二復員局長

吳地方復員局ノ項「七六」ヲ「六〇」ニ、「四五九」ヲ「三七九」  
ニ、計ノ項「三二五」ヲ「三〇九」ニ、「一、五五二」ヲ「一、

四七二」ニ改メル。

(參照 六月十九日第二復員局公報)

復二第一〇九號

復員廳地方復員局定員表(內譯)中次ノヤウニ改正サレタ。

昭和二十一年七月二十日

復員廳第二復員局長

吳ノ部中佐伯掃海部ノ項ヲ削リ「三二五」ヲ「三〇九」ニ、「一、  
一三五」ヲ「一、〇五五」ニ、「一、六九九」ヲ「一、六三四」ニ、  
合計ノ項「一、二三七」ヲ「一、二二一」ニ、「三、八〇〇」ヲ「三、  
七二〇」ニ、「六、五七八」ヲ「六、五二三」ニ改メル。

(參照 六月二十日第二復員局公報)

○ 雜 款

○ 訂正

公報第一一號二四頁下欄十行目「海軍書記大澤吾郎」ハ「海軍  
書記大澤禎司」ノ、「海軍書記鈴木昌夫」ハ「海軍書記鈴木昌夫」  
ノイツレモ誤

復員廳第二復員局公報 第一七號

昭和二十一年七月三十日  
第二復員局文書課

○通牒

二復經主第六號ノ八四

昭和二十一年七月二十七日

復員廳第二復員局經理部長

關係各廳長殿

引揚邦人ノ持歸金取扱ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ大藏省理財局長カラ別紙ノ通り通知ガアツタカラ承知サレタイ。

(別紙)

藏理第二二七七號

昭和二十一年七月十三日

大藏省理財局長

司政長官等發行ノ現金預リ證ノ取扱方ニ關スル件

大阪税關長カラ海外引揚邦人ガ持歸現金ノ代リトシテ携帶シテ來タ左記司政長官等ノ發行ニ係ル現金預リ證(之ニ準ズルモノヲ含ム)ノ取扱方ニ關シ照會ガアツタガコレ等ニ關シテハ昭和二十年十二月二十六日附藏外爲第三九〇號通牒第二項ニ定メル現金預リ證ニ準ジ取扱フコトトシタカラ御了知アリタイ。

記

一 現地聯合軍側ノ指令ニ基キ現地ニ於テ引揚者ノ私有金ヲ取纏メ燒却又ハ聯合軍側ニ引渡シテ上、當該引揚者ニ對シテ交付シタ州長官、州政府出納官吏、陸海軍司政長官、陸海軍司政官、設警隊長、集結隊長又ハ病院長名儀ノ現金預リ證、現金燒却證明書、現金引渡證明書及之ニ準ズル證明書等

藏理外第二二七八號

昭和二十一年七月十三日

大藏省理財局長

現金預リ證ヲ所持シナイ者ニ對スル持歸金ノ支拂ニツイテ

現金預リ證ヲ沒收其ノ他ノ理由ニ依ツテ所持シテ非ナイ者ニ對スル持歸金ノ支拂及數人分ヲ一括シテ發行セラレタ現金預リ證ニヨル持歸金ノ分割支拂ニツイテハ左記ニ依ツテ取計フニ付御承知アリタイ。

記

一 現金預リ證又ハ之ニ準ズルモノノ沒收又ハ紛失證明書デ左ニ該當スルモノハ昭和二十年十二月二十六日附藏外爲第三九〇號第二項ニ定メル現金預リ證ニ準ジ取扱フコト。  
(1) 總領事、領事、部隊長、部隊分任出納官吏、日本人會長

復員廳第二復員局公報 第一七號 昭和二十一年七月三十日

三九

又ハ引揚輸送指揮官ガ發行シタ沒收又ハ紛失ノ理由ヲ記載シタ現認證明書ガアリ、且

(2) 上陸港所在税關責任者ガ前記現認證明書ヲ現金預り證ニ代ルモノトシテ認證シタ場合

(3) 右認證ノ基準及方法

(イ) 沒收又ハ紛失ガ本人ノ不注意ニ基クモノハ認證シナイコト。

(ハ)(ロ) 内地ノ陸後ノ紛失ニ對シテハ認證シナイコト。

(ニ) 不正ノ事實アリト認メタ場合ハ認證シナイコト。

(ホ) 認證ハ前記(1)ノ現認證明書ニ現金預り證ニ代ルベキモノト認メル意味ヲ記載シ税關官印ヲ捺捺スルコト。

(ホ) 歸郷先日本銀行本店又ハ支店ニオイテ支拂ニハ二月二十六日附大藏省告示第三十八號第一項第一號ニ定メル交換證明書ヲ要スルニ付注意ノコト。

二 數人分ヲ一括シテ發行シタ現金預り證又ハ之ニ準ズルモノ

デ左ニ該當スルモノハ持歸金ノ分割支拂ヲ認メルコト。

(1) 現金預り證發行責任者ガ數人分ヲ一括預ツタコトニ付テノ證明書ヲ發行シテキル場合且

(2) 前記證明書ニ對シテ上陸港所在税關責任者ガ認證シタ場合

(3) 認證ノ基準及方法

(イ) 別ニ持歸金限度内ノ現金又ハ現金預り證ヲ所持シテキル場合ハ認證シナイコト。

(ハ)(ロ) 不正ノ事實アリト認メタ場合ハ認證シナイコト。認證ノ方法ハ第一項(3)ノ(ニ)ニ準ズルコト。

藏理外第二二七九號

昭和二十一年七月十三日

大藏省 理財局長

引揚邦人ノ携行スル舊海峽弗及舊蘭印貨(軍票及南發券デハナイ)ノ換算率ハ左記ニヨラレタイ。

尙既往引揚邦人ノ携行シタ前記通貨ヲ海運局又ハ税關デ引揚ゲタモノニ付テハ其ノ保管證ニ依ツテ日本銀行本店又ハ支店デ持歸リ金限度内ノ支拂ヲナサシメルニ付、日本銀行カラノ右支拂明細ノ通報ト共ニ支拂金額相當ノ通貨ヲ日本銀行ニ引渡シ且保管證ヲ整理シオカレタイ。

舊海峽弗	對 邦 貨	一弗	對 二回
舊蘭印貨	對 邦 貨	一盾	對 二回

○ 雜 款

○ 正誤

七月三日附復員廳第二復員局公報第九號令達關第一九頁二復第五〇號第八條中「魚雷術、水測術」ハ「魚雷術、潛航術、内火術」ノ誤

復員廳第二復員局公報

第一八號

昭和二十一年七月三十一日(水)  
第二復員局文書課

○通牒

復二第二二八號

復員廳第二復員局定員表(内譯)中次ノヤウニ改正サレタ。

昭和二十一年七月三十日

復員廳第二復員局長

備考ニ左ノ一號ヲ加ヘル

五 復員事務官二級又ハ三級ノ定員ニ代ヘ囑託ヲ置クコトガ

デキル

(六月二十日第二復員局公報参照)

復二第二二九號

復員廳地方復員局定員表(内譯)中次ノヤウニ改正サレタ。

昭和二十一年七月三十日

復員廳第二復員局長

備考ノ記事ヲ第一號トシテ同號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘル。

二 復員事務官二級又ハ三級ノ定員ニ代ヘ囑託ヲ置クコトガ  
デキル

(六月二十日第二復員局公報参照)

○雜款

復員廳第二復員局公報 第一八號 昭和二十一年七月三十一日

○郵便物發送先

特別輸送艦 海第三十七號 福岡市博多上陸地連絡所氣付

同 輸第一百十號 福岡市博多運航部氣付

同 樺 同

同 宵 月 同

同 第七十九號海防艦 吳市吳郵便局氣付

同 夕 風 京都府舞鶴郵便局氣付

掃海母艦 竹、生 廣島縣佐伯郡大竹町

大竹掃海部氣付

第一百二號海防艦 徳山市徳山郵便局氣付

○事務所

六月十五日開始 大湊地方復員局函館運航部 函館市末廣町

九番地(金森ビルディング七階)

七月十五日開始 群馬地方世話部第二課 高崎市宮廣町三八

(舊第三十八部隊衛門前)

○殘務整理

七月一日開始 南西方面海軍民政府 第二復員局内

○轉官

四月十五日 地方事務官ニ轉官 海軍警部 榊原 誠次

同 厚生事務官ニ轉官 海軍書記 川路 重雄

